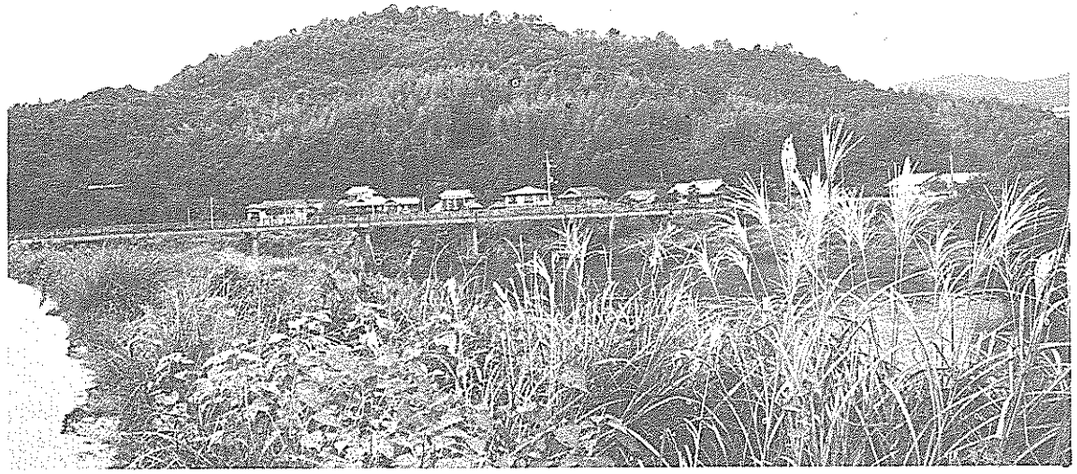
民俗資料館、1日も早く！



▲1日も早い、歴史民俗資料館の建設が望まれている岡豊山

郷土の歴史に親しみ、先人の心に触れよう――と、建設される歴史民俗資料館。昨年八月、その場所として決まった長宗我部氏ゆかりの岡豊山ですが、土地の売買問題が起こり計画が遅れ、心配されています。

地元住民――早い建設を望む

昨年八月、ようやく岡豊山に決まった県立歴史民俗資料館。それまで、安芸市や土佐山田町などが候補地に挙がったものの、歴史的地理的条件で、やはり岡豊山が最適地となったもの。

ここは、長宗我部氏の居城であり、戦国時代の土佐の代表的な山城としての姿を残す、とても貴重な史跡です。

場所の決定とともに、昨年の県議会では用地費の予算計上もされるなど、昭和六十一年度開館に向けて建設が進むものとして、地元岡豊でも大きな期待を持って見守っていました。ところが九月中旬になって、用地の問題で訴訟が起こり、計画が遅れてきました。

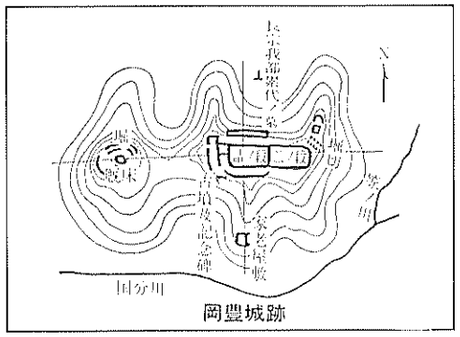
そんな中で、今年の二月地元住民が中心となり、約二千人の署名を集め、一日も早い歴史民俗資料館の建設を、県や関係機関に要望し、陳情もしてきました。地元としては、宅地造成などの開発については、強く反対しており、名城跡岡豊山を今のままの姿で残して欲しいという声が大部分です。

九月には、歴史民俗資料館ができるまで、岡豊山を守っていこうと、地元の常通寺高老人クラブ（川添利雄会長）と市農協岡豊支所青壮年部（覚幸蔵部長）が清掃するなど、地元住民が一体となって運動しています。

今、地元岡豊地区の住民、また市民みんながその建設を望んでいる県立歴史民俗資料館。土地問題が早く解決し、歴史を秘めた岡豊山に、戦国時代の名城岡豊城が、近代的な歴史民俗資料館によみがえることを、みんなが望んでいます。

頂上からの眺めはすばらしく、四季おりおりにその色を変える

市民待望の・・・歴史



岡豊城跡

名城跡岡豊山を守っていこう

秦泉寺啓恵さん

岡豊町八幡にある岡豊山は、戦国時代の武将長宗我部氏の居城で、二十代元親は、ここから土佐を平定し四国を征覇したもので、まさにその時代、ここは土佐の政治の中心地でありました。現在本丸、二の段など県の史跡として指定されており、厩跡（うまやあと）は市指定の史跡となっています。

頂上からの見晴らしはすばらしく、四季を通じ、平野部の色が移り変わる様は見事です。子供のときから、いつも岡豊山を見て育ってきた地元の人には、その歴史とともに、山への愛着も深いものがあります。

昨年夏、この地に県立歴史民俗資料館の建設が決まり、地元としてはまさに願ってもないことと、その建設を待ち望んでいました。しかしながら土地の売買に関する訴訟が起こり、計画が遅れそうになってきました。そのため、地元では「建設予定地の早期確保と史跡岡豊山の保存」を求める署名運動を行い、関係機関に要望書を送り、陳情もしてきました。

皆さんもご承知の通り、岡豊山の一部では、すでに乱開発も進んでおり、もうこれ以上、名城跡岡豊山の姿を台無しにすることはできません。

岡豊山の宅地造成については、地元は反対です。高知放送が所有する岡豊山を取りまいている四つの字、中尾、高尾奈路、馬屋床、西谷は民有地で、所有者は全て地元の人であり「民間の宅地造成を目的とする開発には反対」と、意見も一致しています。

一日も早く、歴史民俗資料館が建設され、歴史公園として岡豊山が保存されることを、強く地元は望んでいます。

岡豊町八幡地区長
秦泉寺啓恵

福祉の風土づくりに

『南国市福祉展』

市民の連帯とボランティアの意識を深めようと、九月二十二日と二十三日の二日間「南国市福祉展」が開かれました。

市・市福祉のまちづくり推進協議会（利岡富次会長）の主催で、会場の社会福祉センターには、お年寄りや主婦ら約八百人が訪れました。

二十二日、小笠原市長らのテープカットで開幕。

会場には福祉協力校の岡豊小、後免野田小をはじめ、南海学園、土佐清風園、土佐希望の家などから出品された写真、書画、家具、木工、手芸品など約四百八十点を展示、即売するなど訪れた人の目を引いていました。

また、各地区の民生委員や婦人会の方が持ち寄った品のチャリティバザーも行われ、収益は社会福祉に役立てていくとのことです。

二十二日には映画「花街の母」の上映や「最近の国際情勢について」と題し、英保怜一郎高知新聞社論説委員長の記念講演も開かれ、その他、補装具の展示、相談コーナーが設けられるなど、二日間にわたって、福祉のまちづくりを進めようと、市民意識の高揚に努めました。

各施設から出品された作品は好評